

3月臨時会・再議への質議(3月28日) 田口一登議員

保育料値上げ撤回
に対する再議

保育料値上げが目的

減税しながら市民負担増を押し付けることが問題だ

新年度予算の修正議決に対し、河村市長が拒否権を発動し、修正が妥当かどうかの「再議」を審議する3月臨時会が行われました。修正案を出したのは自公民新4盗でしたが、減税とともに質疑を行いませんでしたので、日本共産党の田口議員が市民の声を代弁し、質問しました。

保育料値上げ撤回は市民の願い

新年度予算をめぐる保育料の値上げが大きな焦点となり、修正議決によって保育料は据え置きになりました。これは、乳幼児を抱えて、毎日のように委員会傍聴や議員要請に取り組まれたお母さんたちや、名古屋民間保育園連盟をはじめとする保育団体の「保育料の値上げはやめてほしい」という切実な思いに、議会が応えたものです。この点では、市民の声を聴き、市民の視点に立脚するという議会の役割を果たすことができました。

保育料据え置きをくつがえそうとする動きは、断じて許すことができない

田口議員は、日本共産党市議団が、先の2月定例会で予算修正に賛成しなかった理由として「肝心かなめの河村『減税』を容認し、保育料値上げ以外の福祉・市民サービスのカットも容認することになる」と表明し「保育料値上げの撤回には大賛成」ときっぱり。「市民の運動と議会の議決によって成し遂げた保育料の据え置きをくつがえそうとする動きは、断じて許すことができない」として市長を追及しました。

保育料据え置きに異議はないか

再議理由には保育料のことを明示していませんが、今回の予算修正の核心は、保育料の値上げを中止したところにあります。田口議員は「予算修正を再議に付すという市長の行為は、保育料の値上げをやめてほしいという市民世論に敵対するものでないか」と指摘し、「保育料値上げの中止という修正議決を素直に受け入れるべき」とただしました。そして再議理由には掲げ

ていない保育料は、据え置くことに異議はないか」と追及しました。

負担増を強いるやり方が妥当なのか

田口議員は、「保育料の値上げをとりやめることによる歳入減を、法人市民税の収入見込み額を増やして帳尻を合わせるという予算修正は、法令違反とまでは言えないが、苦肉の策には違いない」と見解を示し、問題の本質は「市民税収入見込み額の算定方法が『どんぶり勘定』か、そうでないかにあるのではない。減税によって無理やり税収を減らす一方で、保育料値上げという負担増を市民に強いるやり方が、妥当かどうかにある」と指摘。「今回の再議理由は、こうした問題の本質をそらすものではないか」と追及しました。



市長は「議会の議決には従う。しかし今回のような収入の見込み方は無責任」というだけでした。

収入の見込み方が問題の本質ではない

田口議員は「今回の予算修正をめぐる問題の核心は、法人市民税の増額にあるものではありません。保育料の値上げを中止させたところにあります。この議決をくつがえすことは、市民にたいする議会の責任としてできない」と市長の姿勢を批判しました。

市税の予算額と決算額の推移

